

ローマ法・西洋法制史文献目録(平成31年・令和元年 2019年)

古代・ローマ法

単行本(著編者別50音順)

著(編)者	書名	発行所
伊藤雅之	第一次マケドニア戦争とローマ・ヘレニズム諸国の外交	山川出版社
小池登・佐藤昇・木原志乃編	『英雄伝』の挑戦－新たなプルタルコス像に迫る	京都大学学術出版会
サルスティウス／栗田伸子訳	ユグルタ戦争 カティリーナの陰謀	岩波書店
竹中愛語	彗星のごとく－アレクサンドロス大王遠征記 上巻・下巻	文芸社
プルタルコス／城江良和訳	英雄伝 5	京都大学学術出版会
ヒュー・ボーデン／佐藤昇訳	アレクサンドロス大王	刀水書房

論文(時代別、執筆者別50音順)

執筆者	題名	掲載誌・巻号
足立清人・相原稔彦・五十川加津美・鎌田真由美訳・坂本桃子・杉山範子・平尾政幸・山田順子・山本義行・渡部沙耶	翻訳『創世記(Liber Genesis)新ブルガータ版(Nova Vulgata Editio)』邦訳(2)	北星学園大学文学部北星論集57-1
粟辻 悠	模擬弁論に登場する弁護－伝クインティリアヌス『小模擬弁論集』を題材に	関西大学法学論集68-5
和泉 ちえ	プラトン『国家』第5巻のジェンダー平等思想－「人間のフュシス」の発見	西洋古典学研究67
五十君 麻里子	古代ローマにおける解放奴隷の扶養に関する一考察－Q. C. スカエウオラ法文学説彙纂三四巻一章－六法文一項を手掛かりに	法政研究(九州大学)86-3
出雲 孝	デジタル特有財産に関する一考察－ローマの奴隷制とロボットとの比較から	情報学研究28
内田 康太	C・ユリウス・カエサルの農地法－共和政末期ローマの立法過程と元老院	史学雑誌128-3
大野 普希	パウサニアスのギリシア観－ローカルな次元からの再解釈	西洋古代史研究19
小川 浩三	法学史におけるD. 19, 1, 13 pr.－その2: ヴァイントシャイトの瑕疵責任論におけるその位置	専修法学論集135
小川 浩三	「民法」の誕生とアリストテレス	桐蔭法学25-2
小河 浩	前三五〇年代、トラキアのオドリュサイ王国をめぐる政治・軍事情勢－東王国の王ケルソブレプテスの動向を中心に	史林(京都大学)102-2
葛西 康德	(書評) 粟辻悠著「古代レトリック再考(一)、(二・完)－ローマ世界における法廷実践の観点から」	法制史研究68
葛西 康德	古代ギリシア教に改宗することはできるか	史友(青山学院大学)51
川添 美央子	トゥキディデスのホップズ訳に関する一試論－PrudenceとWisdomをめぐって	慶応義塾大学日吉紀要社会科学30
北野 雅弘	ギリシア悲劇における民主政と自由言論	群馬県立女子大学紀要40
Heredia Chimeno, Carlos	Concord and Instability in the Action of M. Aemilius Lepidus (cos. 78 BC)	西洋古代史研究19

小林 功	ローマ帝国の「後継者」になることー七世紀の地中海世界とビザンツ帝国、アラブ (特集ー文明)	史林(京都大学)102-1
蔡 男	帝政前期ローマのブリタンニア属州統治ー対外クリエンテラの視点から	クリオ33
坂井 聰	(書評)ローマ史理解への新たな視座ー砂田徹著『共和政ローマの内乱とイタリア統合』を読んで	文化史学75
佐々木 健	(書評)宮坂渉著「usucapio pro suoのオントロジー」・森光著「usucapio libertatisのオントロジー」・出雲孝著「近世自然法論におけるusucapioのオントロジーーグロチウスからカントまでの取得時効論ー」	法制史研究68
佐々木 健	古代ローマの提示訴権と評価額減殺ー学説彙纂第一〇巻第四章第九法文第八項(ウルピアーヌス『告示註解』第二四巻)に見る「価額を下回る」	『身分と経済』
澤田 典子	ギリシア世界における権力者崇拜(1)ーブラシダス、リュサンドロス、フィロポス2世	千葉大学教育学部研究紀要67
島田 誠	ローマ帝政初期の権力継承と女性ードムス・アウグスタの役割	星美学園短期大学日伊総合研究所報15
清水 悠	果実概念の形成ー女奴隷の子(partus ancillae)は果実に含まれるのか?ー果実の帰属と使用取得の可否を中心に	早稲田法学95-1
レオ シュトラウス ／石崎 嘉彦訳	プラトン『法律』の議論と筋書き(2)	政治哲学 25
菅尾 暁	表見相続人の和解行為に関する追認問題ーScaev. D. 2,15,3,2	『身分と経済』
田中 実	不倫遺言の訴の法学による規範化ーキュジャーヌスの註解を手掛かりに	南山法学42-3・4
玉田 敦子	レトリック発祥の地の輝きー紀元前5世紀の南シチリアにおける僭主政とオリンピック	人文学部研究論集(中部大学)41
塚原 義央	ユリアヌスの法解釈ーアキリウス法を素材に	『身分と経済』
ミヒヤエル ツバンツガー ／芦野訓和訳	講演 古代ローマから現代の日本へーヨーロッパ法の歴史の連続性	東洋法学62-3
中川 亜希	「記憶の断罪damnatio memoriae」ー史料から見る古代ローマの名誉と不名誉	『歴史家の調弦』
中川亜希・本村凌二	ハドリアヌス帝の属州視察の諸問題	上智史学64
林 智良	(書評)塚原義央著「古典期法学者・ケルスの遺贈解釈ー家財道具supellexの遺贈を中心としてー」	法制史研究68
原口 尚彰	フィロンの法(律法)理解	フェリス女学院大学キリスト教研究所紀要4
福山 佑子	コンモドゥスの記録と記憶ー碑文に刻まれた2世紀末の皇帝・元老院関係	歴史学研究984
藤野 奈津子	(書評)木庭顕著「Hobbes, De civeにおけるmetus概念」	法制史研究68
増永 理考	ローマ帝政前期小アジアにおける文化資本ー経済的持続性を中心に	史林(京都大学)102-4
丸亀 裕司	ローマ共和政末期の政治と弁論ーキケロ『ポンペイウスの指揮権について』(前66年)を手がかりに	西洋史研究48
ウールリッヒ マンテ ／田中実・佐々木健訳	翻訳 ウールリッヒ・マンテ「被解放者(解放奴隷)を相続する権利」	南山法学43-1
ウールリッヒ マンテ ／田中実・佐々木健訳	翻訳 ウールリッヒ・マンテ「パピニアヌスの『姦通論単巻書』ーその伝承と信憑性ー」	南山法学43- 2
宮坂 渉	(書評)森光著『ローマの法学と居住の保護』	法制史研究68
森 光	(書評)佐々木健著『古代ローマ法における特示命令の研究』	法制史研究68

森谷 公俊	プラトン『国家』第5巻における「男女平等」論への批判	西洋古典学研究67
吉原 達也	宮崎道三郎博士講述『比較法制史』緒言及び第一部 羅馬法制史	日本法學84-4
吉原 達也	宮崎道三郎博士講述『比較法制史』第二部 独逸法制史	日本法學85-1
吉原 達也	宮崎道三郎博士の羅馬法講義について	日本法學85-2

西洋法制史

単行本（著編者別50音順）

執筆者	題名	掲載誌・巻号
明石 欽司	不可視の「国際法」－ホッブズ・ライプニッツ・ルソーの可能性	慶應義塾大学出版会
マヌエル・アサーニャ／深澤安博 訳	ベニカルロの夜会－スペインの戦争についての対話	法政大学出版局
足立 孝	辺境の生成－征服＝入植運動・封建制・商業	名古屋大学出版会
アルフォンソ十世 賢王 編纂／相澤 正雄・青砥清一 試 訳	七部法典：グレゴリオ・ロパスー五五五五年版 第1分冊（第1・2部）－第3分冊（第5・6・7部）	自費出版（日比谷出版社）
池谷 文夫	神聖ローマ帝国－ドイツ王が支配した帝国	刀水書房
市橋 秀泰	立憲主義をテーマにマルクスとエンゲルスを読む	東銀座出版社
フィリップ・ヴァルテール／渡邊浩 司・渡邊裕美子 訳	英雄の神話的諸相	中央大学出版部
アンドレアス・ヴィルシング、ベルトルト・コーラー、ウルリヒ・ヴィルヘルム 編／板橋拓己・小野寺拓也 監 訳	ナチズムは再来するのか？－民主主義をめぐるヴァイマル共和国の教訓	慶應義塾大学出版会
額定其 芳・佐々木 健・高田久実・丸本由美子 編	法制史学会70周年記念若手論文集 身分と経済（以下『身分と経済』と略）	慈学社
大西 晴樹	海洋貿易とイギリス革命－新興貿易商人の宗教と自由	法政大学出版局
大浜 聖香子	12-13世紀におけるポンティウ伯の中規模領邦統治	九州大学出版会
加納 和寛	アドルフ・フォン・ハルナックにおける「信条」と「教義」－近代ドイツ・プロテスタンティズムの一断面	教文館
上口 裕	カロリーナ刑事法典の研究	成文堂
オットー・フォン・ギールケ／庄子 良男 訳	オットー・フォン・ギールケ歴史法学論文集 第1巻・第2巻	信山社出版
菊池 良生	ウィーン包囲－オスマン・トルコと神聖ローマ帝国の激闘	河出書房新社
蔵持 不三也	奇蹟と痙攣－近代フランスの宗教対立と民衆文化	言叢社
栗生 沢猛夫	イヴァン雷帝の『絵入り年代記集成』－モスクワ国家の公式的大図解年代記研究序説	成文社
桑木 野幸司	ルネサンス庭園の精神史－権力と知と美のメディア空間	白水社
今野 元	フランス革命と神聖ローマ帝国の試煉－大宰相ダールベルクの帝国愛国主義	岩波書店
上智大学文学部 史学科 編	歴史家の調弦（以下『歴史家の調弦』と略）	SUP上智大学出版
鈴木 教司 編 訳	フランス法服貴族諸王令（対訳）	鈴木教司

瀬谷幸男訳	ブリトン人の歴史—中世ラテン年代記	論創社
高橋暁生編	〈フランス革命〉を生きる	刀水書房
高橋正平	火薬陰謀事件とピューリタン	三恵社
高橋則雄	パリ・コミューンにおける人民主権と公教育	すずさわ書店
竹内真人編著	ブリティッシュ・ワールド—帝国紐帯の諸相	日本経済評論社
立川孝一	歴史家ミシュレの誕生—歴史学徒がミシュレから何を学んだか	藤原書店
陶山昇平	薔薇戦争—イングランド絶対王政を生んだ骨肉の内乱	イースト・プレス
中田元子	乳母の文化史—九世紀イギリス社会に関する—考察	人文書院
那須敬	イギリス革命と変容する〈宗教〉—異端論争の政治文化史	岩波書店
根占献一	ルネサンス文化人の世界—人文主義・宗教改革・カトリック改革	知泉書館
ロベルト・ビツツォッキ／宮坂真紀訳	チチスベオーイタリアにおける私的モラルと国家のアイデンティティ	法政大学出版局
平野千果子編著	新しく学ぶフランス史	ミネルヴァ書房
深尾 裕造 編	マグナ・カルタの800年—マグナ・カルタ神話論を越えて(以下『マグナ・カルタ』と略)	関西学院大学出版会
ヤーコブ・ブルクハルト／新井靖一訳	イタリア・ルネサンスの文化 上・下	筑摩書房
ヴィルヘルム・フォン・フンボルト／西村稔編訳	国家活動の限界	京都大学学術出版会
トマス・ホップズ／高野清弘訳	法の原理—自然法と政治的な法の原理	筑摩書房
堀越孝一	中世ヨーロッパの精神	悠書館
正本忍	フランス絶対王政の統治構造再考—マレシヨールに見る治安、裁判、官僚制	刀水書房
松本尚子編	法を使う／紛争文化 法文化(歴史・比較・情報)叢書 17(以下『法を使う』と略)	国際書院
ノイマン, マルクーゼ, キルヒハイマー／R・ラウダーニ 編 野口雅弘 訳	フランクフルト学派のナチ・ドイツ秘密レポート	みすず書房
三浦信孝・福井憲彦編著	フランス革命と明治維新	白水社
南塚信吾・小谷汪之編著	歴史的に考えるとはどういうことか	ミネルヴァ書房
山田朋子	十一月蜂起とポーランド王国	群像社
ジョン・ロバートソン／野原慎司・林直樹訳	啓蒙とはなにか—忘却された〈光〉の哲学	白水社
渡邊互	法律の留保に関する比較研究	成文堂

論文(執筆者別50音順)

執筆者	題名	掲載誌・巻号
青木 康	イギリスの議会制度と選挙	歴史と地理724
青柳 かおり	イギリス領アメリカ植民地における奴隷法(2)	大分大学教育学部研究紀要41-1
赤松 淳子	姦通・法・メディア—18世紀イングランド女性史の叙述に向けて	東洋大学人間科学総合研究所紀要(21)

朝治 啓三	バロンによる国制改革運動再考—アンジュー帝国史の視点から	帝国と魔女で読み解くヨーロッパ(愛知大学人文社会学研究所研究報告論文集)7-28
浅野 俊哉	不純なる決断—主権をめぐるシュミットとスピノザ	関東学院法学28-1
浅見 和彦	戦後イギリスの労使関係論の諸潮流(6)—労働規制論と労働史研究	労働法律旬報1943
浅見 和彦	戦後イギリスの労使関係論の諸潮流(7)—ネオ・ブルールリズム	労働法律旬報1945
浅見 和彦	戦後イギリスの労使関係論の諸潮流(8)—マテリアリズム(唯物論)	労働法律旬報1947
浅見 和彦	イギリス建築産業における労使関係(1)(2)(3・完)—歴史的な展開とその論点	労働法律旬報1927・1928, 1930, 1932
阿部 和文	大統領命令下の「プレス自由」(2・完)—クルト・ヘンツェルによる評価を素材として	法学雑誌(大阪市立大学)65-1・2
阿部 俊大	アントニ・アルバセーテ=イ=ガスコン 遺言状に見る15世紀バルセロナの解放奴隷たち(下)	文化學年報(同志社大学)68
荒井 真	ドイツの弁護士定員制をめぐる議論—帝政ドイツ期およびワイマール期を中心として	国際交流研究—国際交流学部紀要21
荒木 洋育	ジョン期イングランドの統治手法の特徴とその問題点—軍役代納金の賦課査定対象・徴収状況の観点から	日欧比較文化研究23
有光 秀行	(書評) 服部良久編著『コミュニケーションから読む中近世ヨーロッパ史—紛争と秩序のタペストリー』(MINERVA西洋史ライブラリー 107)	史学雑誌128-6
有吉 弘樹	カントの政治思想における世界知と判断力	産大法学53-1
ジャン=ルイ・アルペラン／田中実・土志田佳枝訳	翻訳 ジャン=ルイ・アルペラン(パリ高等師範学校教授)「歴史法学派の後退あるいはサヴィニー(1779-1861)の方法論の衰退—法の抵触(国際私法)と方法論を中心に」	南山法学42-2
安藤 隆穂	公教育と道徳—フランス革命期公教育論争の経験から	法の科学50
飯島 暢	緊急避難のカント主義的な基礎づけの可能性	法政研究(九州大学)85-3・4
飯 考行	フォイエルバッハ『陪審制度論』とその意義	法の科学50
井澤 龍	イギリスの経済団体と国際的二重課税問題(2) 1919年から1945年のFederation of British IndustriesとAssociation of British Chambers of Commerceの政治的活動を事例として	彦根論叢419
石井 幸三	ベンタム『統治論断片』の断片的註釈(1/2)(2/2)—ブラックストンの「主権」巡って	龍谷法学52-2, 3
石井 三記	Analyse iconologique et terminologique de la Déclaration des droits de l'homme et du citoyen de 1789	名古屋大学法政論集282
石川 敬史	アメリカ革命期における主権の不可視性	年報政治学2019-1
石川 敬史	ジョン・アダムズの混合政体論における近世と近代	アメリカ研究53
石川 敬史	イギリス領北アメリカ植民地の指導者層にとっての啓蒙と常識	イギリス哲学研究42
石黒 盛久	マキアヴェッリの宗教—その政治神学における暴力と愛	金沢大学歴史言語文化学系論集. 史学・考古学篇11
伊豆藏 好美	ホブズにおける人間の平等について	聖心女子大学論叢133
出雲 孝	近世自然法論における継続的契約概念の萌芽—クリスティアン・ヴォルフの契約理論を中心に	情報学研究28
出雲 孝	近世ドイツの市民法学における数学的方法の試み—ライプニッツ=ヴォルフ学派の方法論とそれに対する法学者ネットェルブラットの応答を手がかりに	朝日法学論集51

市川 啓	19世紀ドイツにおける謀議概念に関する一考察 (1)(2・完)	立命館法學2019-1, 2
伊藤 宏二	(書評) 杉原高嶺著「近代国際法の生成母体と法史的展開に関する一考察」	法制史研究68
伊藤 宏二	世界史探究のためのウェストファリア条約	静岡大学教育学部研究報告. 教科教育学篇51
伊藤 宏二	ヨハネス・ブルクハルト著『三十年戦争』(1992年) 翻訳(2)	静岡大学教育学部研究報告. 人文・社会・自然科学篇70
井上 智也	ニュルンベルク市当局・教区牧師・民衆の「共同体意識」と「宗派化」- 領域教会巡察記録(一五六〇/六一年)の分析を中心に	洛北史学21
井上 宜裕	ベルギー保安処分論序説- 精神異常者及び常習犯人に対する社会防衛に関する一九三〇年四月九日の法律を素材として-	法政研究(九州大学)85-3・4
今井 弘道	「市場の法哲学」と正義論-マルクスと「承認を求めた闘争」	北大法学論集70-2
岩井淳・山田一雄	ジョン・リルバーンの迫害体験と宗教思想-ピューリタン革命前夜の「多頭のヒュドラ」	人文論集(静岡大学)70-1
岩倉 依子	16世紀後半における帝国都市ウルムの宗派化- ルター派移行期の教会規律をめぐって	比較都市史研究38
岩波 敦子	(書評) アルフレート・ハーファー・カンブ 大貫俊夫、江川由布子、北嶋裕[編訳]井上周平・古川誠之[訳]『中世共同体論-ヨーロッパ社会の都市・共同体・ユダヤ人』	比較都市史研究38
ナディーヌ ヴィ ヴィエ/槇原茂訳	近代フランスの共有地の歴史	史学研究 303
上田 悠久	ホッブズは「助言者」であったのか- 政治をめぐる同時代人との論争	社会思想史研究43
上田 悠久	ホッブズの政体移行論-ローマの内乱から得た教訓	政治思想研究19
上田 悠久	ホッブズの教会論と助言	イギリス哲学研究42
上田 理恵子	二重体制期オーストリア諸邦における自治体調停制度	『法を使う』
フランチェスコ ヴェットーリ/石 黒盛久訳	翻訳 F・ヴェットーリのマキアヴェッリ宛書簡(1513年3月15日~4月19日)	世界史研究論叢9
上山 益己	中世盛期北フランスの諸侯家系による権力の表象-一〇七〇年フランドルの奉獻式を中心に	鷹陵史学45
エーリク ヴォルフ /鈴木敬夫訳	翻訳 ナチス国家の法理想	札幌学院法学35-2
江口 布由子	国境と家族-第一次世界大戦終結期の東中欧における婚外子の扶養費請求	東欧史研究41
Tortarolo, Edoardo	The Polycentric Nature of Italian Historiography in the 19th and 20th Centuries.	アジア・日本研究センター 紀要14
江藤 隆之	スペイン刑法のプロフィール	桃山法学30
海老原 明夫	(書評) 西村清貴著『近代ドイツの法と国制』	法制史研究68
遠藤 泰弘	ヴァイマル憲法48条をめぐるドイツ国民議会における審議過程(2)	松山大学論集31-1
近江 吉明	フランス革命初期の森林用益権をめぐる攻防とその政治的波及-1789年のオルヌ県教区陳情書に見られる森林用益権の位置	専修史学66
大内孝訳	ブラックストーン『イングランド法釈義』第3巻附録の試訳による紹介と解説-ブラックストーン『イングランド法釈義』全訳作業ノートから(8)	東北法学52
大川 四郎	(書評) 吉原達也訳「ギヨーム＝フランソワ・ルトローヌ『ポティエ師頌』」	法制史研究68
大黒 俊二	(書評) 池上俊一著『公共善の彼方に-後期中世シエナの社会』	史学雑誌128-2

太田 寿明	アダム・スミスの刑罰論-理論史的探究	一橋法学18-3
大中真・周圓	一又正雄文庫を訪ねて【研究ノート】	桜美林論考 人文研究 10
大西 楠・テア	「くじ引き」の合理性	論究ジュリスト31
大場 浩之	ius ad remの法的性質	早稲田法学94-4
大浜 聖香子	12-13世紀におけるポンティウ伯の上級裁判権	史淵156
岡崎 圭祐	ジョン・ロックの宗教的寛容論-名誉革命体制成立期における国家と教会の関係をめぐって	欧米の言語・社会・文化 (新潟大学大学院現代社会文化研究科)25
岡田 正則	「六法」という思想-ナポレオン五法典・行政法典と近代法継受に関する覚書	早稲田法学94-4
岡部 造史	19世紀フランスの公益質屋制度-その福祉としての役割をめぐって	歴史学研究986
岡村 等	反結社法から見たフランス革命における国家-「万能」の国家から抑圧的国家へ	早稲田法学94-4
岡本 託	フランス第二帝政期ローヌ=アルプ地域における地方幹部候補行政官の登用論理-県参事会員登用時の請願書を手がかりに	史学雑誌128-4
櫻田宗紀・上遠野翔・佐野大起・柴田隆功・田野崎アンドレア嵐・藤崎衛・望月滯・森本光・築田航訳	第三ラテラノ公会議(1179年)決議文翻訳	クリオ33
小野 秀誠	中世の大学と講座-初期のマルブルク大学とローマ法の意義	獨協法学108
小野 秀誠	亡命法律家と法の変容	獨協法学109
小野 竜史	西ドイツ・カリタスにおける兵役拒否者の受け入れ過程-兵役拒否制度の機能転換に関する一考察	ゲシヒテ12
小野寺 瑤子	一八世紀末から一九世紀初頭ロンドンにおける治安維持構造の変容-義勇団の治安維持活動に着目して	史学雑誌128-10
小野 直子	ノースカロライナ州における断種政策-生殖の権利と福祉	富山大学人文学部紀要70
小野 博司	マグナ・カルタと明治憲法	『マグナ・カルタ』
アンドレア オルトラーニ	イタリアにおける契約譲渡-法理の歴史的由来とその展開-	法学研究(慶應義塾大学)92-10
デイヴィッド・カーペンター/朝治啓三訳	講演 デイヴィッド・カーペンター「マグナ・カルタ-その歴史的意義,新視角,新史料」及び,セミナー「ヘンリ3世治世 1216-1272年」- 翻訳と解説	關西大學文學論集68-4
貝瀬 幸雄	歴史叙述としての民事訴訟(5・完)-ヴァン・カネム『ヨーロッパ民事訴訟の歴史』を中心に	立教法務研究12
戒能 通弘	(書評)丸橋裕著『法の支配と対話の哲学-プラトン対話篇『法律』の研究』	法制史研究68
鍵和田 賢	近世神聖ローマ帝国における「不寛容」のあり方-18世紀初頭の都市ケルンにおける「居留民条令問題」を事例として	西洋史研究48
鹿子生 浩輝	マキアヴェッリとグイッチアルディーニ-二つの共和国理論	法政研究(九州大学)85-3・4
笠松 和也	ホッブズに形而上学はあるのか-『物体論』の構想をめぐって	国際哲学研究8
加藤 一彦	ナチス統治時代におけるライヒ議会の憲法的地位-擬似議会における反代表制の論理	現代法学(東京経済大学)37
加藤 房雄	南ドイツ・ヴュルテンベルクの世襲財産-大土地所有の存在形態	広島大学経済論叢43-1・2
鎌田 厚志	ヒューム政治思想における陶冶について	法政研究(九州大学)85-3・4
上村 能弘	17世紀後半から18世紀前半におけるイングランドの銀行とファクター制度	経済集志89-1

香山 高広	民法三七五条一項に対するフランス一八八九年二月一三日法の影響	法政研究(九州大学)85-3・4
川口 浩一	日本におけるヘーゲル刑罰論研究の最近の動向	ノモス45
川島 翔	13世紀教会裁判所における紛争解決	『法を使う』
河田 敦子	フランス近代公教育制度ゴブレ法制定過程における初等公教育教員の「国家公務員」化	東京家政学院大学紀要59
河原 温	(書評) アルフレート・ハーファーカンプ著/大貫俊夫・江川由布子・北嶋裕編訳/井上周平・古川誠之訳『中世共同体論 - ヨーロッパ社会の都市・共同体・ユダヤ人』	史潮85
河村 浩城	ドイツ帝政期の法律相談援助	神奈川法学51-3
川元 主税	ハドレイ対バクセンデル再読	名城法学68-3・4
菊池 肇哉	(書評) 小田英著『宗教改革と大航海時代におけるキリスト教共同体-フランシスコ・スアレスの政治思想』	法制史研究68
菊地 諒	「法と経済学」の揺籃(3・完)-ジョン・R・コモンズの見解の紹介と検討	法学論叢(京都大学)184-5
岸本 美緒	(書評) 長谷川まゆ帆著『近世フランスの法と身体-教区の女たちが産婆を選ぶ-』	史林(京都大学)102-3
北浦 貴士	1893~1899年の株式会社規制	経済研究157
姜 雪蓮	住居に対する配偶者の権利と信託-不動産法・信託法・家族法との交錯	法学論集(学習院大学大学院法学研究科)26
栗城 壽夫	ヘルマン・ヘラーにおける憲法の規範力(9)(10)	名城ロースクール・レビュー44, 45
ヤーコプ・グリム ／稲福日出夫訳	翻訳 ヤーコプ・グリム「厳密でない学問の価値について」-試訳	沖縄法政研究21
桑島 翠	ドイツ法にいわゆる「利益没収」制度の法制的考察-刑法における「利益没収」の法的性質を探るための予備的作業として	早稲田法学会誌70-1
小池 和彦	ドイツ普通法における条件付命令訴訟-督促手続の前身として視点から	近畿大学法学66-3・4
郷家 綾	ホップズにおける自然法遵守の義務	エティカ12
小島 慎司	(書評) 春山習著「フランス第三共和制憲法学の誕生-アデマール・エスマンの憲法学-」(同)「レオン・デュギ、モーリス・オーリウの方法-フランス第三共和制憲法学における法学と社会科学-」	法制史研究68
児玉 寛	歴史家ニーブーア(1776-1831)の経歴・家系・著作についてなど	龍谷法学51-3
木庭 顕	市民社会の基層と社会学	法社会学85
木場 智之	原理と反省-カント平和論,第二確定条項の理解を目指して	一橋研究44-1
小林 亜子	フランス革命と植物園-公教育組織法と啓蒙の実験	歴史と地理721
小林 康一	アメリカ合衆国における共和主義思想をめぐる考察-憲法理論の展開を軸として	法律論叢(明治大学)91-4・5
小林 繁子	(書評) 牟田和男著「魔女観念と都市の司法-近世アルザス帝国都市の魔女裁判から-」	法制史研究68
小林 繁子	名誉をめぐる攻防-「魔女」の名誉棄損訴訟と司法利用の戦略	エクフラシス-ヨーロッパ文化研究9
小林 繁子	名誉をめぐる攻防	『法を使う』
小梁 吉章	14世紀フランスの教会判事と世俗裁判所の管轄-1329年ヴァンセンヌ会議の意義	帝京法学32-2
小梁 吉章	抄訳 ジュオン=デ=ロングレイ著「日仏英の中世社会と法制度」(1)(2)	広島法學43-1, 2
小宮 文人	イングランドにおける労働立法とコモン・ロー-産業革命末期まで	専修法学論集135
小室 輝久	マグナ・カルタとブラックストーン	『マグナ・カルタ』

今野 正規	民事責任と刑事責任の分化について(補論)-デュルケーム社会学におけるイエーリングの影響	関西大学法学論集68-6
齊藤 豪大	近世スウェーデン漁業政策の展開-魚群到来以前の漁業振興施策の展開を中心に	経済社会研究59-4
齋藤 敬之	近世都市ライフツィヒにおける治安維持人員の行動とそれに対する認識	史観180
佐伯 尤	ジェイムスン襲撃にかんする一考察	関東学院大学経済経営学会研究論集277
酒井 重喜	チャールズ一世第3議会第2会期の関税論議	熊本学園大学経済論集251-4
櫻井 利夫	補論 中世盛期バイエルンの貴族ファルケンシュタイン伯の城塞支配権-領域支配権の視角から	金沢法学61-2
櫻井 智章	デーラーとガイガーと連邦憲法裁判所-「基本法に与えたバイエルン憲法の影響」補遺	甲南法学59-3・4
櫻井 康人	公会議決議録から見る「十字軍」の変容	東北学院大学論集. 歴史と文化 60
佐々木 真	(書評)仲松優子著『アンシアン・レジーム期フランスの権力秩序-蜂起をめぐる地域社会と王権-』	歴史評論 831
笹倉 秀夫	(書評)定森亮著「マキアヴェッリ『ディスコルシ』とモンテスキュー『法の精神』における共和政ローマの帝政への歴史的変容-共和政の腐敗と富の不平等の増大に関する分析の観点の相違-」(同)「モンテスキュー『法の精神』における共和政ローマの崩壊と軍事的政体の出現-国制の変容と利子率の歴史の関係-」	法制史研究68
佐藤 尚平	破棄された文書に光を当てる-イギリス帝国による植民地文書の隠蔽	歴史学研究985
佐藤 真一	ランケとニーブアー-近代歴史学の成立過程	研究紀要-一般教育・外国語・保健体育(日本大学経済学部)87
佐藤 猛	中世後期アンジュー公国におけるルネ・ダンジューの奉仕者集団-ボーヴォー家(1)	秋田大学教育文化学部研究紀要 人文社会科学74
フィリップ サニャック/フランス近代法研究会	翻訳 フィリップ・サニャック著「フランス革命における民事立法」(45)	大東文化大学法学研究所報39
三宮 希	ライン同盟諸国への『ナポレオン法典』継受に関するギーゼン会議の意義-バイエルン州立文書館(ヴェルツブルク)所蔵文書をてがかりに	福岡大学法學論叢64-1
志々見 剛	16世紀後半のフランスの歴史論におけるトゥキュディデス	ロンサール研究32
渋谷 聡	近世ドイツ帝国における裁判と諸地域-18世紀帝国最高法院と陪席判事推挙の構造	社会文化論集-島根大学法文学部紀要15
渋谷 昌雄	道徳と法-カントの法論をてがかりに	東筑紫短期大学研究紀要50
清水 潤	Lochner判決と革新主義の再検討	比較憲法学研究31
清水 潤	コモン・ロー、憲法、自由(6)(7)(8・完)-19世紀後期アメリカ法理論とLochner判決	中央ロー・ジャーナル15-2, 3, 4
メアリ リンドン・シャンリー/苑原俊明・山口志保・山口みどり・吉永圭訳	翻訳 メアリ・リンドン・シャンリー著『フェミニズム、結婚、ヴィクトリア期イングランドの法』(4)	大東文化大学法学研究所報39
城下 健太郎	カントの刑罰的正義論	法政研究(九州大学)86-3
菅野 瑞治也	19世紀後半のドイツにおける学生結社コアの決闘規程-1871年から1895年におけるテュービンゲンのコアを例として	Brucke22
鈴木 明日見	ランゴバルド諸法における親族	駒沢史学92
鈴木 敬夫	ナチ生成期のエーリック・ヴォルフ-ラートブルフの反ナチ論考との対峙	札幌学院法学35-2

鈴木 敬夫	翻訳 G・ラートブルフ ドイツのキケロー—ヨハン・フォン・シュヴァルツェンベルクの「義務について」の翻訳について	札幌学院法学36-1
鈴木 道也	政治文化研究の現在—中世フランスの象徴と権力	東洋大学人間科学総合研究所紀要22
鈴木 山海	近世ドイツ裁判制度研究の現状と展望—帝国宮内法院を中心に	北大史学59
ルドルフ スメント ／永井健晴訳	翻訳 立憲国家における政治的権力と国家形態の問題—ルドルフ・スメント(1923)	大東法学28-2
ルドルフ スメント ／永井健晴訳	翻訳 プロテスタンティズムとデモクラシー—ルドルフ・スメント(1932)	大東法学28-2
駿河 樹	スイエスの『特権についての試論』	中央学院大学法学論叢32-2
関 哲行	中近世スペインの異端審問とコンベルソ—エストレマドゥーラ都市シウダー・ロドリゴを例に	慶応義塾大学言語文化研究所紀要50
宋 偉男	擬装から公民へ—ホッブズ主権論における遵法的良心の生成	法と哲学5
十河 太朗	イギリスにおける共犯と錯誤	同志社法學71-3
苑田 亜矢	『エドワード証聖王の法』の成立と伝来—手書本と刊本(12世紀から現在まで)を中心に	熊本法学147
高島 麻未	ハート・デヴリン論争のもうひとつの見方	法学研究論集51
高田 京比子	帝国と魔女—ヴェネツィア共和国の事例から	帝国と魔女で読み解くヨーロッパ(愛知大学人文社会学研究所研究報告論文集)
高津 秀之	三十年戦争と帝国都市アウクスブルク—二宗派共存都市の危機と復興	歴史評論830
高橋 清徳	中世パリのあるラテン語辞書をめぐって—新しい知の領域とその言葉—職業と自然	比較都市史研究38
高見 純	(書評) 高田京比子著『中世ヴェネツィアの家族と権力』	地中海学研究42
高 友希子	ユースと良心—セント・ジャーマンと匿名の上級法廷弁護士の論争を中心として	法と政治70-1
田口 正樹	ドイツ騎士修道会对ミュールハウゼン市—四世紀ドイツの国王裁判権と教会裁判権	法制史研究68
田口 正樹	(書評) 櫻井利夫著『ドイツ封建社会の城塞支配権』	法制史研究68
田口 正樹	Rechtsexperten im vormodernen Japan? Betrachtungen im Vergleich mit Europa	Marian FÜSSEL, Frank REXROTH und Inga SCHÜRMANN (Hg.), Praktiken und Räume des Wissens. Expertenkulturen in Geschichte und Gegenwart, Göttingen 2019
武邑 光裕	ベルリン発! デジタルプライバシー考(3)ワイマール憲法とプライバシー	時の法令2081
武邑 光裕	ベルリン発! デジタルプライバシー考(6)プライバシー権の歴史	時の法令2087
竹安 栄子	中世イギリスの農民相続慣行と家父長権—清水盛光の全体志向概念による分析	地域総合研究(鹿児島国際大学)47-1
田瀬 望	(書評) 長谷川まゆ帆『近世フランスの法と身体—教区の女たちが産婆を選ぶ』	歴史学研究985
田中 資太	中近世ヨーロッパにおける教会裁判所の判例研究—ジェンダー、宗派、法秩序の歴史的探究のための一視角として	西洋史学268
田中 俊之	14世紀初頭のスイス中央山岳地域—モルガルテンの戦い前夜の仲裁裁判文書	金沢大学歴史言語文化学系論集. 史学・考古学篇11

田中 浩喜	「監視」と「利用」-第三共和政前期のフランス・リヨンにおける病院のライシテ化	上智ヨーロッパ研究12
田中 美里	フランスにおける「公序」とマニフェスタシオンの自由(1)(2・完)	一橋法学18-1, 2
田邊 真敏	ベルギーにおける少数株主保護の枠組み-会社法の史的展開を踏まえて	現代法学(東京経済大学)36
谷口 良生	議員職を歴任する-フランス第三共和政前期(1870-1914年)におけるブーシュ=デュ=ローヌ県選出議員の政治的経歴	歴史学研究982
谷本 純一	公共性、官僚制そして伝統	法學志林(法政大学)116-1
谷 遼大	ドイツ公法学における参加論の歴史的展開(1)(2)-参加の正統化機能に関する一考察	北大法学論集70-2, 3
田山 輝明訳	翻訳 ヴィントシャイト・法律行為の無効に関するナポレオン法典(7)	比較後見法制10
蝶野 立彦	対抗宗教改革期及び三十年戦争期のドイツにおける日本宣教情報の受容と解釈-1580年代~1630年代の《イエズス会日本書翰・年報》《天正遣欧使節記録》《慶長遣欧使節記録》の出版とその歴史的背景	カルチャールー明治学院大学教養教育センター紀要13-1
塚田 哲之	合衆国最高裁判所一九六二年開廷期のsit-in cases	神戸学院法学47-4
唐 正超	近代フランスの土地収用立法とコレラ予防	ヨーロッパ研究(大東文化大学)13
遠山 隆淑	不信のシステム-バジヨットのフランス第二帝政論	法政研究(九州大学)85-3・4
クロード=オリビエドロン/福崎裕子訳	人種、自由、平等、博愛 フランスにおける科学と政治の間での「人種」概念の来歴(1815-1840)	人文学報(京都大学)114
直江 眞一	マグナ・カルタと中世法	『マグナ・カルタ』
中川 洋一郎	ジャン・ボダン主権概念の遊牧民的起源-前4千年紀、遊牧三階層における権力構造とその後の主権概念の展開	経済學論纂(中央大学)60-1
中澤 務	トラシュマコスと正義	關西大學文學論集69-1
中島 幹人	1791年憲法体制下におけるフランス北部の市民構成-ノール県とパド=カレ県における「受動市民」数の再検討を中心として	東海史学53
中谷 崇	ドイツ民法典における遺言錯誤規定の生成(1)(2)(3・完)	立命館法學2019-1, 2, 3
中野 万葉子	(書評) 松島裕一著「法思想史学における有権解釈学の一断面-後任者は前任者の法令を解釈できるか-」	法制史研究68
中村 芳昭	アメリカの裁判例 Lary v United States, 787 F.2d 1538(11th Cir. 1986)	青山ローフォーラム8-1
中村義孝訳	1804年ナポレオン民法典(7・完)遺稿	立命館法學2018-5・6
永本 哲也	17~18世紀ノイヴィートにおける宗派複数性-近世ヨーロッパにおける法、実践に基づく宗教的寛容	独協大学ドイツ学研究76
西川 洋一	初期ドイツ民主共和国における「司法の民主化」とは何だったのか(1)	国家学会雑誌132-11・12
西迫 大祐	19世紀イギリスの反予防接種運動における自由と権利について	法律論叢(明治大学)91-6
西迫 大祐	ジャック・ヴェルジェスの司法戦略とミシェル・フーコーの哲学について	『法を使う』
西 平等	媒介/無媒介の境界-カール・シュミットの主権論	年報政治学2019-1
西野 基継	カント実践哲学における尊厳の意味	愛知大学法学部法経論集218
西村 隆誉志	(書評) 中野万葉子著「ジャン・ドマの義務の体系-損害賠償論を中心に-」	法制史研究68

西脇 秀一郎	団体法の二元性(2)(3)-ドイツ民法典社団法の原 基的モデルの一考察	龍谷法学52-1, 2
トーマス ニッパ ーダイ/大内宏一 訳	翻訳トーマス・ニッパードイ『ドイツ史 1866~1918 年、第2巻、民主主義を前にした権力国家』「終章」 (上)	西洋史論叢41
トーマス ニッパ ーダイ/河野眞訳	翻訳トーマス・ニッパードイ 18世紀末から19世紀 前半のドイツにおける社会構造としての組合	文明21(愛知大学)43
沼本 祐太	執政概念の歴史的研究(2)(3・完)-アメリカ及びド イツにおける古典的理論の考察	法学論叢(京都大学)184- 6, 185-1
野田 龍一	シュテューデル美術館事件における係争物処分禁 止-1821年4月21日イェーナ大学鑑定意見をめぐつ て	福岡大学法學論叢64-1
野田 龍一	シュテューデル美術館事件における証拠保全-「こと がらの永久の記憶のための証明」	福岡大学法學論叢64-2
野田 龍一	シュテューデル美術館事件における訴訟手続の受 継-シュテューデル美術館所蔵史料をてがかりに	福岡大学法學論叢64-3
野田 龍一	シュテューデル美術館事件における占有訴訟の一 考察-『勅法彙纂』C.6.33.3と『改訂改革都市法典』 6.2.1	福岡大学法學論叢63-4
長谷川 佳彦	ドイツにおける行政訴訟の類型の歴史的展開(5・ 完)	阪大法学68-5
波多野 敏	(書評)岡部造史著『フランス第三共和政期の子ど もと社会-統治権力としての児童保護』	法制史研究68
服部 高宏	(書評)関谷昇著「アルトジウスの人民主権論とそ の思想的源流」	法制史研究68
花田 洋一郎	(書評)大浜聖香子著『一ニ一三世紀におけるポ ンティウ伯の中規模領邦統治』	九州歴史科学47
浜 忠雄	フランスにおける「黒人奴隷制廃止」の表象	北海学園大学人文論集66
林 克樹	カントにおける実践理性の法的要請-「理性の事 実」からの演繹	文化学年報(同志社大学) 68
林 嵩文	ヨハン・ゲオルク・シュロッサーと封建制の理想	法学政治学論究-法律・ 政治・社会(慶應義塾大 学)123
原田 晶子	中世後期ドイツ都市における教会建設財団 (fabrica ecclesiae)と世俗の教会後見人の活動か らの一考察	慶應義塾大学言語文化研 究所紀要50
原田 俊彦	ただ一つの出来事-トマス・ジェファソンの歴史認 識	早稲田法学94-4
原田 昌博	ワイマル共和国中・後期の政治的暴力に関する研 究の現状	鳴門教育大学研究紀要34
春山 習	シエスの憲法思想の再検討	早稲田法学94-4
春山 習	主権と統治(2・完)	早稲田法学94-2
桧垣 伸次	Louis D. Brandeis裁判官の表現の自由論	法と政治70-1
久田 由佳子	1830年代奴隷制討論禁止規則の成立をめぐって- アメリカ合衆国連邦議会における言論統制(1)	紀要-地域研究・国際学 編(愛知県立大学)51
姫野 学郎	ブランダイスにおける法と事実-ロクナー期にお ける「事実の領分」による「法の領分」の侵食の問題	国学院法学57-2
平手 賢治	トマス主義自然法論と朱子学的自然法論-自然法 の本質と普遍性	法政論叢55-1
平手 賢治	ジョン・ダニエル・ワイルドの自然法論序論-古典 的自然法論の歴史的展開	岐阜協立大学論集53-1
平手 賢治	ジョン・ダニエル・ワイルドの自然法論(1)-自然法 論の創始者としてのプラトンとアリストテレス	岐阜協立大学論集53-2
平山 令二	文学と法(その15)ヘルマン・ヘッセの場合	ドイツ文化(中央大学)74
ジョゼフ・ブー シュル/藤田貴 宏訳	ポワトゥー慣習法における平民相続	独協法学108
ジョゼフ・ブー シュル/藤田貴 宏訳	ブーシュルの卑属加入論	独協法学109

ミヒャエル フェルスター／本田稔 訳	不法に仕えた法律家(1)-元帝国司法省事務次官 フランツ・シュレーゲルベルガー(1876-1970年)の 生涯と業績	立命館法學2019-2
V・W フォルスター ／松島裕一 訳	V・W・フォルスターの法解釈理論(1)	撰南法学56
深尾 裕造 訳	英法史資料邦訳紹介 旧土地法	法と政治69-4
深尾 裕造 訳	英法史資料邦訳紹介 グリーンウッド報告(1854)に みるドイツ諸邦の法学教育・法曹養成制度-グナイ スト,ミッテルマイヤー,ヴァーロフ博士他の回答から	法と政治70-3
深尾 裕造	<資料><英法史資料邦訳紹介>グリーンウッド 報告(1854)にみるドイツ諸邦の法学教育・法曹養 成制度-グナイスト, ミッテルマイヤー, ヴァーロフ 博士他の回答から	法と政治70-3
藤川 直樹	一九世紀ドイツ公法学における「君侯法」(3)(4) (5・完)-王位継承法理論の展開を中心として	国家学会雑誌132-3・4, 5・6, 7・8,
藤川 直樹	ドイツ第二帝政期における「領邦君主の家族」の 身分と法学-ザクセン, コーブルク=ゴータ, オル デンブルク	『身分と経済』
藤川 直樹	(書評) 西村清貴著『近代ドイツの法と国制』(成文 堂、二〇一七年)-法史学の側から-	法の理論37
藤川 直樹	(学界展望) Thorsten Keiser, Vertragszwang und Vertragsfreiheit im Recht der Arbeit von der Fruhen Neuzeit bis in die Moderne, 2013	国家学会雑誌132-9・10
藤崎 衛	祈りを必要とする教皇たち-中世における教皇の 死とメモリア	『歴史家の調弦』
藤田 貴宏	(書評) 田中実著「シャルル・デュムラン『損害論』 (一五四六)における勅法(C. 47. 7.1)解釈」	法制史研究68
藤田 貴宏	卑属結合と学識法-16世紀ラインフランケンにおけ る立法と助言実務(1)	独協法学110
藤田 貴宏 訳	ラインフランケン地方の卑属結合法(1)	独協法学110
藤田 貴宏	平民による封の保有と分割-フランス慣習法学に おける免役封税と貴族的分割(2)(3・完)	独協法学108, 109
藤田 風花	東地中海世界と対抗宗教改革-ヴェネツィア領キ プロスにおける正教徒とカトリック信徒	史林(京都大学) 102-6
藤永 康政	アメリカ合衆国の人種主義的大量収監と21世紀の 刑罰国家	歴史学研究987
藤本 幸二	刑事手続における記録へのアクセス権の本質-刑 事弁護の史的分析試論	アルテスリベラレス(岩手 大学人文社会科学部)105
藤原 修	国家的重大犯罪に関する法・政治・哲学的考察- ハンナ・アーレント『エルサレムのアイヒマン』を手 掛かりに	現代法学(東京経済大学) 36
藤原 翔太	ナポレオン時代の村会と地方自治	史学研究(広島史学研究会) 302
クリスチャン ブッ セ／榎澤能生 訳	翻訳 クリスチャン・ブッセ「ドイツにおける農林地取 引法制-史的概観と今日の議論状況-」	早稲田法学94-2
マリアン フェッセル ／前田星・田口 正樹 訳	法律家は悪しきキリスト教徒?-近世の専門家批判 としての法律家批判	北大法学論集70-3
ジュリアン・ブドン ／石井三 訳	翻訳 フランス革命期の諸人権宣言	名古屋大学法政論集281
古谷 英恵	アメリカ契約法上の錯誤法理の発展とドイツ法の 影響	武蔵野法学11
ヘーゲル／早瀬 明 訳	ヘーゲル著『ドイツ国制論』草稿断片訳と註-ドイツ の政治的分裂とマキアヴェッリの思想	研究論叢(京都外国語大 学)93
キンチ ホエクスト ラ／松原健太郎 訳	戦争に抗するリアリズム-ホッブズとトゥーキュディ デース	論究ジュリスト29

星野 修	近代化とカトリシズムとの相克をめぐって-M.ウェーバーのカトリシズム論とC.シュミットの応答	山形大学法政論叢70・71
細口 泰宏	グランヴィル・シャープの反奴隷制法廷闘争-18世紀イギリスにおける「奴隷制」の実態	青山学院大学文学部紀要61
堀川 信一	アウグスト・フォン・ベヒマンの錯誤並びに条件論	大東文化大学紀要. 社会科学57
マリー=クレール=ポントローノ村田尚紀訳	外国法と比較法-自立可能な学問領域?	法と政治70-1
前田 俊文	プーフェンドルフ『自然法にもとづく人間と市民の義務』の翻訳をめぐって	久留米大学法学79
前田 星	ヨーロッパ近世刑事司法の中の魔女裁判(1)-ハインリヒ・フォン・シュルトハイスの『詳細なる手引き』を手掛かりにして	北大法学論集70-4
正本 忍	フランス王国のマレショーセの規律、指揮命令系統および職務に関する王令(オルドナンス)(1760年4月19日)(1)	多文化社会研究5
増田 義幸	イギリスの刑事責任年齢の変遷と展望	法政論叢55-1
松川実 訳	翻訳 英米知的財産権法関連判決集[フェア・ユース]-Lawrence v. Dana, Federal Cases, Vol. 15, 25 [Case No. 8, 136] (C.C.D. Mass. 1869)(1)(2)	青山法学論集60-4, 61-1
松川実 訳	翻訳 英米知的財産権法関連判決集[共同著作]-Levy v Rutley, L.R., 6 C.P. 523 (1871)	青山ローフォーラム8-1
松園 伸	18世紀前半期、スコットランドにおける国家統合と「非公式な」政治支配 - 「世襲的司法権廃止」(1747年)まで	西洋史論叢41
松本 薫子	婚姻法の再定位-フランス民法典の変遷から(1)(2)(3)	立命館法學2019-1, 2, 3
松本 和洋	(書評) 宮城徹著「一〇世紀後期・一一世紀 Thorney修道院所領の形成と土地景観」	法制史研究68
松本 尚子	「文化」構成要素の分節化についての一試論	『法を使う』
三上 佳佑	フランス第二帝政下の憲法構造-執行権責任の内部構造に対する分析を中心として	南山法学42-3・4
三上 佳佑	フランス第二共和制と大臣責任制-国家元首有責原則と大臣責任原理の疎外化をめぐって	早稲田法学94-4
水林 翔	ジャン・ドマにおける公法理論	流通経済大学法学部流経法學19-1
三成 美保	ジェンダー視点から問う所有権	法律時報91-2
皆川 卓	近世イタリア諸国の「主権」を脱構築する-神聖ローマ皇帝とジェノヴァ共和国	歴史学研究989
南 祐三	(書評) 渡辺和行著『ドゴールと自由フランス-主権回復のレジスタンス-』	歴史学研究983
耳野 健二	(書評) ヤン・シュレーダー著・石部雅亮編訳『ドイツ近現代法学への歩み』	法制史研究68
耳野 健二	モーリツ・アウグスト・フォン・ベートマン=ホルヴェークの法思想における「自由」と「関係」-「形式的自由」の導入をめぐって(2)	産大法学52-4
三宅 雄彦	古稀論集と学派对立-一九五九年シュミット包圍網とスメント	駒澤法学19-2
向井 伸哉	(書評) 仲松優子著『アンシアン・レジーム期フランスの権力秩序-蜂起をめぐる地域社会と王権-』	西洋史学268
牟田 和男	都市の教養エリートと魔女迫害-宗教改革・三十年戦争を背景にしたアルザス帝国都市ハーゲナウの場合	ヨーロッパ文化史研究(東北学院大学)20
棟形 康平	フランスにおける裁判機関間の競合問題の一側面-「暴力行為の理論」の史的展開	九州法学会会報2019
上村 一則	ドイツ人法律家カール・フォークトが見た久留米俘虜収容所-真崎所長によるドイツ俘虜将校殴打事件の周辺	法政研究(九州大学)85-3・4

村木 数鷹	マキアヴェッリの歴史叙述『フィレンツェ史』における対立の克服を巡る言葉と暴力	国家学会雑誌132-9・10
ヘンリー・ジェームス・サムナー・メイン／菊池肇哉訳	翻訳 ローマ法と法学教育	日本法學84-4
森 暁洋	(書評) 田口正樹著「中世後期ドイツ国王裁判権の活動としての確認行為(一)～(三・完)ーヴェンツェル時代のドイツ国王裁判権と確認行為ー」(同)「一五世紀後半の神聖ローマ帝国と西ヨーロッパー「ブルゴーニュ問題」をめぐってー」	法制史研究68
森島 豊	抵抗権の思想史的系譜-宗教改革からピューリタン革命まで	キリスト教と文化(青山学院大学)35
森田 猛	ブルクハルトの『チチェローネ』とドイツ教養層のイタリア旅行-初版索引と併読ハンドブックを手がかりとして	史林(京都大学)102-2
森原 隆	(書評) 岡部造史著『フランス第三共和政期の子供と社会ー統治権力としての児童保護ー』	北陸史学68
守矢 健一	戦争とデモクラシー-シュミットとトーマのデモクラシーを巡る論争	論究ジュリスト 29
屋敷 二郎	基礎法学のススメ(第5回)西洋法制史のススメドイツやフランスの法制史は日本の法制史です!	法学教室460
安武 真隆	『統治二論』の国際的文脈-「連合権力」をめぐって	法政研究(九州大学)85-3・4
安武真隆・ダニエラ・コーリ・木村俊道	行事記録 第50回シンポジウム ホップズのローマ-タキトゥスとマキアヴェッリの間で	ノモス45
柳井 健一	マグナ・カルタと憲法学	『マグナ・カルタ』
柳澤 治	三月革命期のドイツ立憲議会と経済問題-国民経済委員会を軸に	明治大学政治経済研究所政経論叢87-1・2
柳田芳伸・田中育久男	英米における救貧法の略史	長崎県立大学論集52-3・4
藪本 将典	(書評) 横井川雄介著「ブランタジネット家領ガスコニュ現地領主の上訴実態ー一五九〇～一三二七年ー」	法制史研究68
山崎 彰	ブランデンブルク農村社会における社会紛争と土地所有権-レカーン領の農民とビュドナーを事例に	社会経済史学85-3
山本 陽一	アダム・スミス『道徳感情論』(6版)第5部「慣習が道徳感情に及ぼす影響」の一分析-クロード・ビュフィエとの関連を中心に	香川法学38-3・4
吉原 達也	(書評) 野田龍一著「シュテーデル美術館事件と『ナポレオン法典』ー一八〇一年ー一月二日デクレの拘束力をめぐって(一)・(二・完)ー」	法制史研究68
ゾーラン ラシヨヴィチ／三谷恵子訳	翻訳 モンテネグロの立法者(リュクールゴス),ヴァルタザール・ボギシッチ	青山ローフォーラム7-2
劉 洋	16世紀のカスティーリヤ都市参事会における血の純潔規約の影響-トレド市を例に	クリオ33
フランク・レックスロート／田口正樹訳	ヨーロッパ専門家文化の中世的起源	北大法学論集69-5
フランク・レックスロート／田口正樹訳	学問の身体と精神-1070年ごろ以降の初期スコラ学の学校についての観察	北大法学論集69-5
マイケル・ロバーン／戒能通弘訳	エドワード・クックの時代のマグナ・カルタ	『マグナ・カルタ』
若曾根 健治	ラント平和とフェーメ-1371年カール四世「平和法」を中心に	熊本法学145

若曾根 健治	フェーム裁判の初期史をめぐって(3)(4・完)-13世紀ドルトムントの証書にみる	熊本法学146, 147
鷺尾 祐子	家と女性の国制史	女性史学29
渡邊 昭子	(書評) 秋山晋吾著『姦通裁判-18世紀トランシルヴァニアの村の世界-』	東欧史研究41
渡辺 節夫	(書評) 中堀博司著「ブルゴーニュ公国と諸都市-移動宮廷とそのモニュメントをめぐる試論-」	法制史研究68
渡邊 裕一	(書評) アルフレート・ハーファー・カンフ著 大貫俊夫、江川由布子、北嶋裕編訳 井上周平、古川誠訳『中世共同体論 - ヨーロッパ社会の都市・共同体・ユダヤ人』	史林(京都大学) 102-5
渡邊 裕一	ロックおよびホッブズにおける統治の目的-全体の秩序と個人の権利	国際哲学研究8
割田 聖史	一般ラント行政法(一八八三年)下のポーゼン州体制	青山史学 37